

資料名	素材	使用場所	使用方法	法量
金毘羅宮の札				98×18×2.5
獅子舞道具一式				31×40×36
フード／帽垂	綿		・ジャケットなどに取り付けて、フードとして使用する(フード)・日射病予防の為に帽子の後ろに首まで垂らすように付けた布。	45×36
祭具・供物用	木・漆		祭祀	28.5×39×10
旧日本軍陸軍帽子			陸軍隊員が軍服と一緒に使用していた。	23×5
軍服	綿			67×40
作業ズボン				90×37
戦争用品				
弾薬盒・図囊			・弾薬盒・・・弾薬入れのポーチ。革帯に嵌めて使用。・図囊・・・革帯から吊るす長方形の革製ケース。地図、書類を入れる。本部将校はたいてい持っている。	20×12×5
雑囊			肩から斜めにかける大きい布製ポーチ。戦闘間は手榴弾などを入れておく。携帯口糧、私物なども入れておく。	19×10×5
コート(箱入り)	フェイク ファー・綿・ ラビット? ファー		防寒具として使用。	40×55×16(箱)
編上靴	皮革・釘・金 具		軍靴。底には滑上に鉄の鋳が打ってある。	27×17
飯盒	鉄		屋外で使用する携帯炊飯器具。	15×17.5×10
部隊用防毒検査機二號			毒ガス、粉塵、有害なエアロゾル、微生物、毒素などから体を守る為に顔面に着用するマスク。(防毒面)それを検査する機械。	32×12×21
五千度御●大麻				33.5×9.5×5
戦災資料				
戦争関係の品				38.5×52×25
?	鉄			
馬の鞍(爆弾運搬用)	皮・鉄・釘	戦地	爆弾運搬用の鞍として使用。	60×70×71
掛け軸	紙		軍人勅諭を説いた掛け軸。	165×42.5
消防車				175×95×134
ポンプ?				28×58×63
竜吐水	木・鉄		木でできた手押しポンプのひとつ。火を消す道具。	272.5×65×106
ミヤココンロ			持ち運びができる、炊事用の加熱器具。	34×34×29
多株穴播機(籾蒔機)			農地の排水環境もよくなり、稲もみの直接蒔き付けの栽培農法が普及した。この「稲籾蒔機」は苗代作りと田植えの作業を省略して田に直接種籾を蒔き付けた。	125×50
?	木・鉄			163×43.5×42.5
鋸	鉄・木		木材や金属を切断するために使用される。	75×11.5×3
?				48×100
稲苅り機	鉄		稲株をはさんでハンドルを握り、刃先で刈り取る仕組み。	137×22
種蒔き機	木		麦類の種まき等に使用された。畑に鍬等でサクをつくり、堆肥やカナゴエを入れ、種蒔き機で種を蒔いた。	109×30
杵	木		臼と共に使い、主に穀物の脱穀や粳すりなどに用いる道具。形状は棒状で端を太くした堅杵(たてぎね)と槌状の横株がある。	75×42×6.5
麦蒔き機			たいこの部分に種麦を入れ回転されて、バランスよく種を落として行く。その上に土肥えを掛け春の芽吹きを待つ。	128×35×9.5
臼			餅や穀物をつく道具。	56×50
鎌			稲や草を刈る道具。	51×13
菅笠・笠	竹		頭にかぶり、雨・雪・日光などを防ぐもの。	57×57
フイゴ	木		把手を押し引きし、炉に風を送り火力を強める。	17×61×31
米用漏斗(一斗)	竹		米を口径の大きい容器から、口径の小さい穴、または管を通して投入していた。	53.5×53.5×37
ブラシ(牛用)			牛の毛並みを整える。	21×10×3
ブラシ(牛用)	金属・鉄製		牛の毛並みを整える。	9.5×11×4
鼻ぐり	木		鼻に通すのは牛が生後一年前後になった時。	16.5×11×1.8
石臼	石		上の臼と下の臼を重ね合わせて、上の臼を手で時計方向と反対に回して、豆や稲などを粉にする。	28×28×22.5

資料名	素材	使用場所	使用方法	法量
おいこ	木・縄		枠に荷物を乗せて荷綱でくくり、背中に当たる部分には、ワラ製の背あてをあてて用いる。	96×23.5×35
？				100×92×92
豆粕切り				95×33.5×69
？				197×50×39.5
籠(小・蓋付き)				18.5×18.5×22
荷車(大八車)	木・鉄		稲運びはもちろん、肥料や米など使い道は広かった。	321×68.5×37
田植え綱			親綱と植綱があった。親綱に直角に植綱を張り、二桁づつ下がって植えて行った。二人一組となり、行きを植綱の標しに沿って植え、帰りは中を植えて下がる。	46.5×39×72
とんぼ？				7×67×166
糸巻機				32×58×74
手鉤	木・鉄		「かます」に結めた穀物の持ち運びに手が滑らないように引っ掛けて使用された。	20×14×17.5
？	木・鉄			45×10×4
舞良戸	木		正面入り口から入って西側の戸。板戸の一種。	174×97×3
ふたつめ			牛舎の鶏糞の処理に使用した。	98.5×14
皿付きの秤				58.5×24.5×40.5
棹秤	木・鉄		物の重さをはかる道具。	94×2
俵締め機	鉄		俵を締める時に使用する。	155×34×50
？				106×29×4
？				43.5×43.5×12
水車	木		流水や落水の力を利用して、羽根車を回転させ水のエネルギーを機械エネルギーに変える動力装置。灌漑などのため水路に設置し、人が足で踏んで田畑に水を送り込む装置。	210×31×228
手牛ん鍬	木・鉄			157×36×77
木挽用の鋸	木・鉄		「こびき」とは、切り倒した木を板等に整える仕事をする人のこと。鋸は刃の幅が広く、まっすぐに挽きやすい形をしています。丸太を縦に挽きます。	21×75
ミルクタンク？			牛乳を保管するために使用した。	23×23×36
釣桶？	木・鉄		井戸水を汲上げる時に滑車に縄をつけた桶を釣り使用する。	16×12.5
牛ん鍬(おんが)			牛に鞍を付け、「しりがせ」に「うしんが」を付けて深さを調整しながら掘り起して行った。	171×18×83
縄ない機			藁を入れ、足踏みをして縄をう道具。	54×154×97
糸車(紡車)			種を取り除いた綿を打ち綿に加工し、これを少量ずつちぎり、一升杵の底に広げて四角く整えてから棒状に巻き、端をひねり出したものを糸車のクダに取り付け、糸車を回しながら撚りを掛けて糸に紡いで行く。	62×62×86
籠(紐付き)、天秤棒	竹		液体以外の運搬を目的とした容器として使用。	148×89×43.5
千歯こぎ	木・鉄		稲の脱穀用具で鉄製の物はカナゴキとも呼ばれていた。櫛のように、植えこんだ歯で稲をしごいて籾を落とす。	8×58×27
ふる鍬(フリコミジョレン)	木・鉄		木製の台に柄が取り付け、この台(ふる)の先に鉄刃をはめてある道具。	135×19×35
うち板			物を切る時に載せる台として使われた。	59.5×83×5.5
田草取り機(手押し除草機)	木・鉄		夏場の稲田の草取り機。水田の中で押すことによって、胴が回転して爪で表土をうがち、草を取ると共に土を返して日光の吸収を良くし稲の生育を図った。	150×46(一丁) 126×53(二丁)
足踏み輪転機(脱穀機)	木・鉄		人が足で踏んで、輪転機を回転させて、脱穀するものがある。回転する胴の部分に、U字形の鉄線(歯)が一行に10本程、全体で10列取り付けられている。	70×70×65
唐箕	木		かり取った稲のからをとりさった後、籾とからや藁を分けたり、十分に実ったものとそうでないものを分ける道具。	130×124×47
？				16×30×26
？	木			8×70×136
唐竿	竹		ぶりをつけて回転させ、藁(むしろ)の上の穀物を打つ道具。麦穂を実と皮に分けたり、稲穂のチリを叩いたりする。	167×18
籾さぐり(だんがめ)			藁(むしろ)に広げ、時折「籾さぐり」でさぐることによって斑なく乾燥させた。	45×20×182
箕			選別する時に使う。	69×81×21
牛鉄用鞍(牛の鞍)			牛等の背に置いて、人や荷物をのせる道具。	42×70×16

資料名	素材	使用場所	使用方法	法量
へらま叩き(培土鍬)			麦畑のへらま(土の塊)を砕くのに使用した。	46×18.5
代掻き(牛馬用)	木・鉄		田植え前に田に水を入れ、土を細かく砕いてかきならす道具。	72×47.5×9
鍬	木・鉄		田んぼなど、土を平にする時に使う。	52.5×16×90
?	木			96.5×18×37
耕耘機				12.5×6
糸枠(座繰り器の一部)	木・竹		ふわりに掛けた総(かせ)状の織糸を糸枠(小枠)に巻き返す時に使用した。	24.5×19
水筒			飲料水などを入れて持ち歩くための容器。	6×8×21
鍬筒?	竹		やまごが仕事の道具を持ち運ぶ時に入れた筒。	42.5×8
苗籠	竹		成長した苗を入れて、おいこで担いで田へ運ぶ。	53×57
?	鉄			32×30×24
スクリュー	鉄	海	流体中に回転することで回転軸方向に流体の流れを生む装置である。	5×30
漁用網	糸・針金・石	海	魚を追いつめたり、沖合に張った網を陸地に引き寄せて魚を漁獲する際に使用する。	38×43.5
魚籠	竹	海	捕った魚を入れておく籠。	27×46
蛸壺		海	1本のロープに100個ぐらゐを2〜3m間隔で付けて海に沈めておき、2〜3日して引き上げる。	11.7×11.7×24
たも網		海	糸・縄・針糸・竹などで目を粗く編んだもので、魚をすくう道具。	42×128
お椀セット		住居	飯・汁などを盛る半球形の食器。食事の時に使用。	30×46×22
伸子針(棒)		住居	反物の両耳に(側面)張り渡すことで布を強く張ることができる。その間隔が狭いほど布地に均質な張りを与え、縮みを少なくしてくれる。	53×9
湯たんぽ	陶器	住居	日本で用いられる暖房器具の一つ。湯を注ぎ栓を布団などに入れて暖をとる。	8.5×24×23
すり鉢	備前焼	住居	魚の身やごまなど、食材をすりつぶす食器。	12×30
祭具(天狗の面等)				23×18(天狗のお面)
庶民用お歯黒道具(一部)		住居	女性が、五倍子粉(ふしのこ)と温めたお歯黒水を混ぜてつくったものを歯に塗るための道具。	9×37.5×10.5(箱)
箱?	木	住居	収納用具	22×30×30
焼き置物(大黒様)	焼き物(土)	住居	置き物。縁起物として使用?	8.5×5.5
一升枧	木・鉄		穀物の量を量る。	31×31.5
スキー用品	木・縄	スキー場(雪山)	2本の専用の板を足に固定し、雪の上を滑らせて歩行、または滑走して移動する。	130×16 190×8(板)
缶?	鉄			28.5×28.5×20
お櫃・飯櫃・御鉢	木	住居	ご飯を入れておく容器。	42.5×45×31
木箱(家紋入り)	木	住居	何かを収納していた?	12×42×13
木箱	木	住居	何かを収納していた?	24×45×13.5
ラジオ	木・鉄	住居	電波による音声の受信機。	21.5×49×26
押し寿司機	木	住居	押し寿司を作る為に、飯と具を重ね一定時間力をかけて押せる用具。	18.5×32×17
氏子札	木			9×6×1
練炭作り器		住居		23×42
?	木・竹			165×54×7
鉄壺?	鉄			26×26×25
板?	木			29.5×15×0.5
水瓶	土	住居	飲料水用の水を入れておく。	36.5×36.5×48.5
一斗枧	木	住居	米を量るために使用していた。(一斗の量を量る)	35.5×45×20.5
桶(サイズ色々)	木	住居	細長くけずった板を円筒形に組み合わせ、竹や金属等でつくったタガで外側にはめ、締めて底を付けた器。	33×71(大)
掛け時計	木・ガラス	住居	時刻を示し、また時間を計るための器械。	42×22×14
?				20×48×8
ガラス瓶	ガラス	住居		8×8×15
祭具?	木・布	和気郡三石町三石		45×107×51.5
神楽・獅子舞・唐子衣装	綿		神を祭る為に、神前で奏する舞楽、また悪霊を鎮めるための呪術的舞踏をする際に用いた衣装。	29×41×12(箱)
かき氷機	鉄	住居	手回しの氷掻き機でシャリシャリと掻いた氷にシロップをかけた。 かき氷は「氷水」と呼ばれた。	25.5×35×69
炬燵の炭入れ	石	住居	中に炭や灰を入れて、やぐらの中に入れ、暖を取る道具。	21×21×9.5
掛け軸用の箱?	木	住居	掛け軸を保管する箱。	53×10.5×9.5

資料名	素材	使用場所	使用方法	法量
魚型小物入れ？	焼き物	住居		4×15×14
？	木・縄			35×22. 5
上着？				114×92
ストーブ	鉄	住居		22×22×65
(の)ぎいす？	木・布	住居		83. 5×48×101
升	木	住居	液状・粒状・粉状のものの容量を量るための方形・円筒形の容器。	17. 5×17. 5×9. 5
きりこみ	木			23×31×15
衣装箱(大)		住居	衣装用の収納用具。	42×80×35
木箱(書入り)	木・釘	住居	収納用具	23. 5×48×24
巾着(火打ち袋)？			口を紐などでくるようにした、布製の小さな袋(火打ち石や火打ちかまを入れる袋)？	13×11
矢立て筆入れ			旅先や外出先で使用する筆や筆記用具を入れる箱や筒。	24
葛籠	竹	住居	竹を使って網代に(縦横に組み合わせて)編んだ四角い衣装箱。	22×75×40(大)
小物筆筒？	木・鉄	住居	小道具などを収納しておくための家具。	24×19×21
大工セット？	木・鉄		鉋、のみなどが入っていた大工工具。	8×57×19
橇円の桶(生け鉢)？	木		水・氷等を入れて魚類を生けて新鮮さを保ち、両端の穴に網を通して天秤棒で担いで使用する桶である。	20×58×35
釜	鉄・木	台所	ご飯を炊くのに使う金属製の器具。	20×15
竹籠	竹	住居	竹・藤などで編んで作った入れ物。	33×45×23
蒸籠	竹	台所	米等を蒸す時に使う物。	30×30×33
寿司桶(蓋付き)	木	台所	寿司を盛りつけるのに用いられる桶。	50×13
バリカン	鉄		形状は山形の2枚の刃を動かし、毛髪を切る理容器具。	22. 5×10. 5(大) 15. 5×10(小)
徳利	焼き物(土)	台所	酒を入れる容器。	8×8×28
？				11×7. 5
ランプのガラス部分のみ	ガラス			8×8×16. 5
膳ミニセット	木・漆			8. 5×15
鉄瓶	鉄	住居	湯を沸かす道具。	18×14
ランプ	ガラス	住居	洋風の灯火。 石油を燃料として、綿糸の灯心に灯をともし、周囲をガラスの火屋(ほや)でおおったもの。	40×13×13
ランプの枠	鉄	住居		62. 5×22×13
ランプ(筒型・ろうそく用)	鉄		ろうそくに灯をともし、周囲を筒型の火屋(ほや)でおおったもの。	28×7. 5
ランプ(黒い四角型)	鉄・ガラス		洋風の灯火。 石油を燃料として、綿糸の灯心に灯をともし、周囲をガラスの火屋(ほや)でおおったもの。	30. 5×11×9. 5
ランプ(黒い丸型)	鉄・ガラス		洋風の灯火。 石油を燃料として、綿糸の灯心に灯をともし、周囲をガラスの火屋(ほや)でおおったもの。	31. 5×22
棒？	木			31. 5×1. 7
ランプの下？台？	鉄		ランプの燃料を入れる容器。	19. 5×13(大) 13×10(中) 9×7. 5(小)
ぶら提灯	鉄・和紙		照明器具の1つ。 内部に明かりを灯し、紙等の風防を通して周囲を照らす。	36. 5×12
アルコールランプ	鉄			16. 5×18. 5×7. 5
ランプ(茶色)	ガラス		洋風の灯火。 石油を燃料として、綿糸の灯心に灯をともし、周囲をガラスの火屋(ほや)でおおったもの。	28. 5×18
置きランプ(黒色)	鉄		洋風の照明器具。	34×15
煙草盆(煙草付き)	陶器・木		煙管(キセル)で煙草を吸っていた頃に使われたもので、火入れや灰吹(はいふき)などをセットして入れた小さな箱。	8×17. 5×17. 5
かね？				5. 5×15
ランプ	ガラス			16×8. 5
小説・本				38. 5×52×25
そろばん(小)			計算補助器具である。枠、梁、中棧と言われる横板、裏軸や裏板からなり、珠を(天1株、地4株)をはじき計算する。	6. 5×36
高足盆(箱付き)			御膳を乗せ食事をする台。	21×21×21
吸い物膳(木箱)			汁を入れ飲む為の椀が入っている。	39×30×30

資料名	素材	使用場所	使用方法	法量
小菓子鉢	陶器		菓子等を盛る皿。	7×18. 5
抹茶セット			茶碗、扇子、ふくさ等、抹茶を飲む時に使用する物が納められている。	13×30. 5
盃(箱入り)			酒を飲む時に使用する。	5×10. 7×10. 6
ねこ			飯びつを入れて、ご飯が冷めるのを防ぎます。	29×43
夏用枕	竹・木		寝る時に使用する。	14. 5×19. 5×14
火燵で使用するコード？ (黒い箱入り)				20. 5×28. 5×10
小物引出し(3段)	木		小物を入れ、保管する引出し。	17. 5×21. 5×12
脇息	木・布(綿)		座った時、肘を掛けて体をもたせかける為の用具。肘掛け。	28. 5×40×14
かんざし(箱入り)			女性が髪の毛を結う時に頭に飾るもの。	15×6. 2×1. 7 (箱)
枕(枕入れ)	木・絹		寝る時に使用する。	21. 5×24×27
儀式用柄杓？			儀式で使用する柄杓。	61×10
番傘			油紙を貼った雨傘。	75
ピンボール			金属の球を用いて点数を競うゲームに使われる遊戯機械である。	45×23. 5×3
神棚用道具一式？				21×31. 5×12. 5
木箱				23×33×17. 5
机				50. 7×59×27
衣こう	木		着物をかけて使用する。	157×166
木箱	木		本を収納する。	29×20×51. 5
電気？(箱入り)				17. 5×36×28. 5
村瀬式蠅捕器(ハイトリック)			ハエ取り器。 酒か酢に砂糖を混ぜたものを塗っておくとハエが誘われ、網の箱に閉じ込められる仕組み。	14×23. 5×24
？				37×37×29
？				
指樽	木		酒器。箱形に組み立て、上に注口(つぎぐち)を作った酒樽。儀式用。	34×12×42. 5
？	鉄			16×20×7
缶？入れ物？	アルミ？			10. 5×16×2
杼(バツタン)			機織り機で使う道具。	22×4×2. 5
衝立	木・竹			120×165. 5
夏用の扉？	木・竹			174×97
トランク	皮・鉄		荷物を入れ持ち運ぶ。	35×70×21(大) 30×56×16(中) 22. 5×37×10 (小)
？				50. 5×5×6
木皿入	木		食器	
六角岡持ち			料理を食器ごと出前する道具。	23×21×24
五月人形一式	鉄・糸・綿		祭具などに使われていた、五月人形。	88×46. 5×29. 5
文箱				24×21. 5×21. 5
？				33×45×57
銭箱	木・鉄		商家で用いる長方形の鍵付きの銭入れ箱。	24. 5×38×30
箱				40×18×4. 5
長い箱	木			22. 5×101. 5×22
膳	木・漆		一人前の食器と食物を載せる台のこと。	11×32×32
徳利・お猪口	陶器		徳利・・・酒の容器。首が細く下部が膨らんでいる。 猪口・・・酒器の一つ。小さな器のこと。	18×6(徳利・大) 13×4(徳利・小) 2. 5×7(猪口) 3. 5×3. 5(湯飲み型)
タイプライター	鉄		先端部に活字が付いている部分が機械を介してキーに直結しているため、印字したい用紙をローラーにセットし任意のキーを押下すると、振子の原理でアームの先部分からインクリボンを叩きつけインクを紙に染み込ませ印字させる。	44×30×40
足踏みミシン	木・鉄		足でペダルを踏むことにより、ミシンを動かし布などを縫製する。	80×89×42. 5
火鉢(角火鉢等)	土(焼き物)・鉄製・		灰を入れ、中に炭火をいけて暖房や湯沸かしに使う道具。	27×30(大)
炬燵檯	木		熱源の上に、やぐら(こたつで布団をかぶせるための四角い枠)を置き、布団をかけて暖をとる器具。	21×30×23

資料名	素材	使用場所	使用方法	法量
人形	陶器・綿・毛髪		子供の玩具。	9×31×12.5
木(タッパー入り)	木			9×30×22.5
うちわ	木・紙		扇いで風を起こす道具の一種。	34.5×24.5
ハイトリキ			ハエ取り器。	11×11×20
議員投票箱	木・鉄		選挙等の時に、決められた用紙に候補者の指名などを記し、入れる箱。	42.5×55×51.5
映写機(プリンター?)			フィルムやスライドの画面をスクリーンに映し出す器械。	44×46.5×98(大) 27.5×32×64(小)
すだれ?				188×43
レコード(箱入り)			音声や音楽を記録する。	28×33×19
?				13×13×7
綿繰機	木		綿花より種と綿を分離する木製器具。2本のローラの間に綿花を挟み、把手を回してくい込むように回転させると、ワタ(繰り綿)だけが向こう側に送り出され、種子はワタからむし取られて手前に残る働きもする。	30×49×28.5
宇佐八幡宮神輿(二ノ輿)		備前市西片上	御神幸されていた。 春の祭りで使用されていた。海運の神である?	108×108×165 340×6.5(棒)
馬の鞍			馬の背中に取り付け、人が乗る道具。	51×56×80
竜吐水	木・鉄		木でできた手押しポンプのひとつ。火を消す道具。	52×260×100
軽便防火ポンプ			火災の発生や延焼を防ぐために、水を吸い上げたり送り出したりする装置。	130×7×7
大甕	備前焼(土)		水・酒・醤油等の食品を入れ、保存していた。 一石(180L)〜四石がつくられた。	79×79×97
郵便ポスト	木		郵便物(はがき、手紙)などを投函する箱。	76×35×118.5
駕籠			人を乗せる箱形の台に、一本の棒を通し、二人以上の人 が前後から担いで運ぶ乗り物。	60×105.5×109
紙袋	紙		お歯黒を入れていた。	9.5×6.5
版木			お歯黒袋の表に印刷した。	17.5×21×2.5
香登お歯黒		備前市香登	お歯黒の粉末。	
大型杓子			汁や飯をすくうのに用いる道具。	91.5×20 130×6(棒)
お歯黒道具		住居	女性が、五倍子粉(ふしのこ)と温めたお歯黒水を混ぜて つくったものを歯に塗る為の道具。	39×27(鏡)
五倍子			お歯黒の粉	
竹ざる	竹		お歯黒を作る時に使った。	67×67×23
定規			お歯黒袋製作に使っていた。	21×2×2.5
竹製のさじ	竹		お歯黒の粉を袋に入れる時に使う道具。	20×2×2
菅笠			頭にかぶり、日除けや雨具として使用した。	54×54
鍬	木		田んぼなど、土を平にする時に使う。	52.5×16×90
綿繰機	木		綿花より種と綿を分離する木製器具。 2本のローラの間に綿花を挟み、把手を回してくい込むよ うに回転させると、ワタ(繰り綿)だけが向こう側に送り出 され、種子はワタからむし取られて手前に残る働きもする。	30×49×28.5
蓑			合羽(かっぱ)のように、肩から掛けて着る雨具。	103×40
千歯こぎ	木・鉄		稲の脱穀用具で鉄製の物はカナゴキとも呼ばれていた。 櫛のように、植え込んだ歯で稲をしごいて籾を落とす。	80×61×51
柄ぶり	木	伊部小学校寄贈	水田に油をまき、その油膜を稲株にかける害虫防除道具。 東北地方で祭りに使用している地域がある。	149×9×18
培土鍬	木・鉄		土をすくっては麦にかける道具。ふるいの役目をしている。	153×18×30
手押し除草機(田草取り機)	木・鉄		水田の中で押すことによって、胴が回転し爪で表土をうが ち、除草する道具。	140×18×62
ふる鍬(フリコミジョレン)	木・鉄		木製の台に柄が取り付けられてあり、この台(ふる)の先に鉄刃 をはめてある道具。	135×19×35
足踏み輪転機(脱穀機)	木・鉄		人が足で踏んで輪転機を回転させて脱穀するものである。 回転する胴の部分にU字形の鉄線(歯)が一列に10本程、 全体で10列取り付けられている。	70×70×65
ゆりのこ	木・鉄		籾、米、麦、ササゲなどをすくって斗桶(とおけ)に入れたり する時に使う道具。	19×24×6
唐竿	木・竹		ぶりをつけて回転させ蓆(むしろ)の上の穀物を打つ道具。 麦穂を実と皮に分けたり、稲穂のチリを叩いたりする。	156×19×4

資料名	素材	使用場所	使用方法	法量
牛鉄	木・鉄		牛馬に水田をひかせて耕耘(こうん)する犁(すき)。ヘラのところで土塊が反転するようになっている。	53×137 112×81×11
薦編道具(こもげた)	木		2つ組になった木製のおもりを「つつろ」といい、これで藁で編みました。土台の木には細かい切り込みがついており、俵や魚籠を編み込む時の目印になっていた。	133×22×48
牛鉄用鞍	布・鉄	備前市西片上	牛の背に付けて、牛に牛鉄(うしなが:水田を耕耘する物)をさせるときに使う。	13×44×23
秤	木・鉄		米の生産単位を調べていた。	72×2
唐臼	木・土・藁		籠編みの中に苦汁を混ぜた土を詰め、檜の歯を打ち込んだもので、上下の歯を噛み合わせて粉を除去する。操作は、唐臼の上部に取り付けた竹竿を二人で回し、少しずつ粉を穴から落とすを上下の歯で粉の皮がむける。1回では全てむけない。	93×144
錠機			二人がかりで錠機に経縄を掛け、一人がオサを操作して経縄のアヤを開くと、そこへもう一人が稲藁数本を通し、オサで叩いて織り目を詰めるという動作を繰り返す。多くは夫婦で行われていた。	176×60×155
草履作道具	木		草履作りの台に芯縄を掛け、この間に稲藁を2・3本ずつ織り込んで指で織り目を詰めていく。また台の代わりに足の指を使うことも多く、その場合には左右の第一指に芯縄を掛ける。	24×71×10
篩	木・鉄		大豆の処理、稲のチリの処理などには大型を使い、米を精白して白米を糠(ぬか)に分ける時には、「糠おろし」といって中型を使う。	35×35×9
木挽用の鋸	木・鉄		「こびき」とは、切り倒した木を板等に整える仕事をする人のこと。鋸は刃の幅が広く、まっすぐに挽きやすい形をしています。丸太を縦に挽きます。	79×29
唐箕	木	備前市伊部	かり取った稲のからをとりさった後、粉とからや藁を分けたり、十分に実ったものとそうでないものを分ける道具。	164×31×118
万石どおし	木・鉄		からを取っただけで、白くしていないお米(玄米)のいいものと悪いものを選んで分ける道具。	94×40×123
灌漑用水車	木		田に水を取り入れる水口に設置して用水路を引く道具。	210×31×228
おいこ(しよいた)	木・藁		枠に荷物を乗せて荷綱でくくり、背中に当たる部分には藁製の背当てをあてて用いる。	100×30×5
叩き	木・鉄	伊部小学校寄贈	田畑の土の塊を叩いて小さくする道具。	128×15×35
縄ない機	木・鉄		藁を入れ、足踏みをして縄をなう道具。	90×130×52
風呂	木・鉄・土		その家の嫁が風呂番となり、ぬるいようであれば薪(クヌギやナラなど軟木)をくべ、熱いようなら井戸水を汲んで入れ、湯加減を調整していた。湯殿には排泄設備がないため、湯の中で手拭いで体をこすっていた。	65. 5×65. 5×9 5
水瓶	土		飲料水用の水を入れておく。	36×36×42
柄杓	木・竹		水をすくう。	60×10×8
手桶	木		風呂の湯をすくう。	20×20×29
ランプ	ガラス・鉄		洋風の灯火。石油を燃料として、綿糸の灯心に灯をともし、周囲をガラスの火屋(ほや)でおおったもの。	30×30×45
掛け時計			壁に掛けて使用する、時間を示し、また時間を計るための器械。	55
石臼	石		上の臼と下の臼を重ね合わせて、上の臼を手で時計方向と反対に回して、豆や稲などを粉にする。	29×26
杵	木		臼と共に使い、主に穀物の脱穀や粉すりなどに用いる道具。	42×10×75
餅臼	木		蒸した米を餅にする時などに、臼に餅米を入れ杵でついて餅を作った。	46×46×50
飯櫃	木		羽釜(かまどでご飯を炊くのに使う)で炊いて、ご飯を入れておく。	32×32×25
釜	鉄・木		かまどで火を起こし、米を炊く時に使う。	30×30
かまど	粘土		日々の煮炊きが行われ、ここに釜を掛けてご飯を炊いた。	53×64×94
糸車(紡車)	木		種を取り除いた綿を打ち綿に加工し、これを少量ずつちぎり、一升杵の底に広げて四角く整えてから棒状に巻き、端をひねり出したものを糸車のクダに取り付け、糸車を回しながら撚りを掛けて糸に紡いで行く。	62×62×86
銭箱	木・鉄		商家で用いる長方形の鉤付きの銭入れ箱。	33×23×24

資料名	素材	使用場所	使用方法	法量
文机	木			36×92×32
香盤	木		「香盤時計」とも言い、昔時を知らせる寺の鐘もこのような香盤によって時を知り鐘を撞いた。	26×26×30
マツウラ?	竹		夏場に蒸れて腐ることがないように、竹でできたマツウラに移し、通気性をよくした。	26×26×14
御鉢入れ・ねこ	藁		飯櫃を入れ、ご飯が冷めるのを防ぐ。蓋付きで藁でできている。	45×45×32
漆器椀			汁などをよそう食器。	4×10
きりこみ	木			40×15(大) 10×28(中) 10×28(小)?
指樽	木		酒器。箱形に組み立て、上に注口(つぎぐち)を作った酒樽。儀式用。	13×43×34
炬燵	木・瓦		熱源の上に、やぐら(こたつで布団をかぶせるための四角い枠)を置き、布団をかけて暖をとる器具。	30×30×25
置炬燵	瓦焼		この中に火を入れる道具を置く。	20×20×30
火燵(ヤグラ)			庶民が炬燵として使用していた。	46×46×31
鉄瓶	鉄		湯を沸かす道具。	15×15×10
長火鉢	木・鉄		室内に置いて、湯を沸かしたり暖をとるもの。	30×63.5×30
神棚	木・鉄		家の中で、神を祭っておく棚。	47×137×61
電話器(磁石式・卓上式)	木・鉄			14×15×25(磁石式)
箆笥	木・鉄		豊富な衣料を狭い家の中で場所を取らず、安全に収納、保管できる用具として使用。	40×69×69
炭火アイロン	鉄		器の中に炭火を入れ、高温にし衣類のしわを伸ばすのに使う。	11×17×16
アイロン(火のし)			衣類のしわを伸ばすのに使う道具。	38×15×18
行灯	木・和紙		照明道具。木などの枠に紙を張り付け、中に火を灯す。	32×32×86 15×15×51
火鉢	鉄		灰を入れ、中に炭火をいけて暖房や湯沸かしに使う道具。	50×50×25
仏壇	木		仏像、位牌などを安置しておく箱形の仏具。	69×123×173
衝立			部屋を仕切る家具のひとつ。	101×107×4
花見用食器入れ			花見などがある時に食器を入れ、持ち運ぶ箱。	14×26×27
煙草定価表				41×111
カッチン			網の染料。大きな塊を砕いて、このように小さくして使う。	
網			漁で捕った物を入れておく網。	49×49×77
かしあげ桶			網を染める時に使用した桶。	65×65×22
縄桶			ロープに付けている釣り針をふちにかけておく道具。	44×44×10
棗			種油(たねあぶら)を使用して燈心(どうしん)で灯を付けた。	18×18×32.5
蛸壺			1本のロープに100個ぐらいを2～3m間隔で付けて沈めておき、2～3日して引き上げる。	14×14×24
投網			漁業に用いる漁網の一種で、岸辺や船上から魚がいると思われる地点に投げ入れて魚を獲る道具である。	56
沙魚壺			1本のロープに100個ぐらいを2～3m間隔で付けて沈めておき、2～3日して引き上げる。	4×17×20
穴子籠			漁で穴子を捕るための籠。	13×13×35
蛸縄			球根などを針に付けて蛸を釣る道具。	30×95
けたこぎ(なまこ漁具用)			海草の中などに棲んでいる「なまこ」を獲る用具。千貫石(せんがんいし)を付けて船でひく。	95×32
千貫石	石		海底などにいる、なまこ・えびなどを獲る網につける重石(おもし)。 石製・コンクリート製・鉛製などがある。	26×23
たも網	木		魚をすくう網。	101×55
飯蛸壺			飯蛸をつかまえるための壺。 螺殻(にしから)使用のものもある。	7×7×13
ランプ	金属・ガラス		防護付きになっていて、風等で灯が消えないようにしている照明器具。	7×15×28
鰻掛け	竹		長い木の柄をつけて、鰻をかける道具。	230
石こぎ(なまこ漁具用)			海底が石等の状態のとき船でひいて「なまこ」をとる道具。網の底の部分に木の皮などを付けて、破れないように補強している。	150×50 (網は測定不能)
魚干籠	竹		魚を干物にする時に使う籠。	55×55
真珠養殖の網			阿古屋貝を挟んで使用する網。	73×44

資料名	素材	使用場所	使用方法	法量
針魚漁網				56×?
陸軍軍服			陸軍が着用していた服。	130×45
ロングブーツ	革・鉄		防寒靴。	28. 5×44
帽子			防寒用帽子。	33×22
水筒			飲料を入れ持ち運べる入れ物。	57×13
巻き脚絆	布		人体の脛部分に巻かれる布等をいう。ズボンの裾を押さえることで活動時にズボンの裾が乱れない様に、障害物等で足元を怪我しない様に、足の鬱血を防いで血行を良くする等が目的の被服である。ゲートルともいう。	232×10
灯火管制ランプ	ガラス		夜間、敵機の来襲に備え、地上の状況を悟られない様に減光・消灯することである。	13×5. 5
出征軍人の家の札	木		出征兵士を送り出している家であることを示す標札で、通常は玄関の表札の隣に掲げられた。	39×10×2
十二年型市民防毒面専用一號吸収缶	鉄・ゴム		毒ガスなどから体を守る為に顔面に着用するマスク。	68×14
出征兵士の口の丸書き書き				64×80
大日本国防婦人会袋				64×28
大日本国防婦人会たすき	布			57×6. 5
出征お祝いの旗				133×63. 5
奉公袋			陸軍において入営及び戦地に赴く時、必需品を入れていった袋。	34×22
書物				21×15×1. 5
戦時中の雑誌				18. 5×26×1
そろばん			計算補助器具である。枠、梁、中棧と言われる横板、裏軸や裏板からなり、珠を(天1株、地4株)をはじき計算する。	6. 5×7. 5×1. 5
?				13. 5×13. 5
お菓子箱・マッチ箱				8×4. 5×2
飾り戸棚(本箱)				28. 5×45×69
蓄音機			レコード盤に、録音された音を再生する装置。	28×76×6
レコード			音楽・語りなどの音を記録し、レコードプレーヤーで再生する溝のある円盤。	25×25
鋼鉄針			蓄音機の針。	5×3×1
籠の中のおもちゃ?				18. 5×18
貯金箱			金銭をためる入れ物。	6×10. 5
手回しミシン			手でハンドル部分を回して動かし、布を縫う道具。	21×34. 5×23
靱さぐり(だんがめ)			むしろに広げ、時折「靱さぐり」で、さぐることによって、斑なく乾燥させた。	45×20×182
瓶?				27×27×44. 5
登録商標 看板?				148. 5×36×3. 5
手鉤			柄の先に鉄のかぎをつけた道具。	14×8
奉公袋				29×21
安全炬燵				22. 5×26. 5×26
?				12×12×7. 5
甕口縁部				16×18×7
小皿	土			8×9
小皿(龍)				13. 5×13. 5
全集中●●●金	土			10. 5×10. 5×3. 5
?	木			16×18. 5×22
支那事變従軍記章				11×6×2
上皿十匁元二百匁	木・鉄			26×9. 5×2. 5
アオイガイ				9×13
種壺	石			20×23
岡山の昔話(レコード)				31×31
恵美須宮の神木				18×35